

第 1 回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 会議録

日 時	令和元年（2019 年）11 月 27 日 15 時 15 分～
場 所	熊本市役所 本庁 4 階 モニター室
出席委員	[別紙のとおり]
	<p>1. 開会</p> <p>2. 委員紹介</p> <p>3. 計画策定委員会について</p> <p>4. 会長選任</p> <p>5. 議事</p> <p style="padding-left: 20px;">1) 副会長選任</p> <p style="padding-left: 20px;">2) 策定スケジュール</p> <p>事務局 [資料 1 に基づき説明]</p> <p>田中委員長 全体スケジュールについて何か質問等はないか。</p> <p>坂元委員 パブリックコメントについて、聴収する個数等の予定があれば伺いたい。</p> <p>事務局 パブリックコメントは通常通りに実施することとしており、詳細については市の HP 等での周知を予定している。個数の設定等は行わない予定。</p> <p>田中委員長 パブリックコメントについては、聴収意見個数の目標設定があってもいいかもしれない。合わせて、沿道商店街や地元説明について事務局として考えることがあれば教えていただきたい。</p> <p>事務局 重点実施路線は今後の議論で決定していくものであるが、例えば中心市街地を走る路線となれば、上通り、下通り、新市街の商栄会の代表者であったり、その沿道周辺の校区自治協議会を対象に説明をしていきたいと考えている。</p> <p>福西委員 パブリックコメントについて、市の HP に掲載するだけではなかなか気が付かない人もいる。自身の友人にも、パブコメがあっていたら意見を投稿したかったのに気付いた時には募集期間が終わっていた、という人もいる。できることなら広報誌にも掲載をしていただけるとありがたい。</p> <p>事務局 パブリックコメントについては、HP と合わせて市政だよりを通じて周知をしたい。</p> <p>3) 計画骨子</p> <p>事務局 [資料 2、3 に基づき説明]</p> <p>田中委員長 事務局からの説明に対し、全体を通して基本的な内容について質問はないか。</p> <p>吉ヶ嶋委員 資料 2 の表紙では計画名称が「第 1 期」となっており、P12 では計画期間が 5 年間と記載があるが、その関係性はこういったものか。</p> <p>事務局 第 1 期の期間を 5 年間として設定している。</p> <p>田中委員長 その他意見が無ければ、第 2 章（計画の体系と基本的な方針）について議論を進めたい。まずは、そもそも熊本市の街路樹とはこういったものかについて吉村副委員長から言及いただきたい。</p>

吉村副委員長	<p>以前の熊本市は非常に街路樹が多かったが、近年では様々な支障が出てくることにより、歩道整備等の機会に減少していく傾向にある。住民意見として、落葉等があるため街路樹は撤去してほしいという意見もあれば、一方で街路樹が景観に寄与するものでもあるため残してほしいという意見もある。</p> <p>熊本市は、海に近い場所から山のふもとに至るまで様々な地域があるが、街路樹もその種類によって適切な土地の条件がある。例えば海の近くでは地下水が多いため、その特性に合った街路樹を選択していく必要がある。</p> <p>そういった中で街路樹管理にかかる予算も減少傾向にあり、管理が追い付かずに街路樹が大きくなりすぎて沿線住民からの苦情や諸課題の発生につながっている。今後いかに効率よく管理を行っていくかが現状の問題であると認識している。</p>
田中委員長	<p>自身が初めて熊本に来た際は熊本空港からバスで第2空港線を通った。第2空港線の街路樹は昭和60年代に当時の細川知事が緑の3倍増計画に基づき植えられたという認識はあったが、「森の都」は街中だけでなく阿蘇に続く道路にも広がっていることを実感し、とても素敵だと感じた。また、市内に入れば熊本城があり「水と緑」という印象が強い。自身は京都の出身であり、熊本の夏の暑さに耐えられないと感じることもあるが、その分緑陰等の街路樹による恩恵も感じるところである。</p> <p>しかしながら、大学構内においては学生からイチョウの実が臭いや、落葉が滑る等の意見も聞くため、人によって感じ方が異なることも感じている。吉村副委員長の発言のとおり、維持管理も費用が伴うものでもある。</p> <p>計画の基本方針について、事務局案としては安全面（機能）・景観面（美観）・管理面（経済）の3つでまとめており、合わせてSDGsにも配慮のうえ持続可能性という面も加えている。また、今回は1期計画として、今後も2期、3期と続けていくような考えているが、このことについて意見があれば教えていただきたい。</p>
松本委員	<p>基本方針を考える上においては、街路樹が経済的な価値を持つことも認識すべきである。もし街路樹が無ければ、雨水が吸収されずに洪水が起きやすくなったり、夏場に緑陰がなくなりクーラーの稼働が増えてエネルギー効率が悪くなったり、窒素酸化物やCO2等の有害物質が吸収されなくなることが考えられる。これまで、街路樹は装飾品や景観に寄与するものという目線で見られてきたが、自身として、今後は街路樹が持つ経済的な価値についても考えていくべきだと思っている。</p>
田中委員長	<p>松本委員の指摘は、街路樹は適切に管理することにより熊本市の資産としても活用できるという内容である。再生方針における「景観・魅力」と「管理」にかかる部分で、景観に配慮すれば環境にも良いというwin-winの話にも繋がる。適切な維持管理は費用がかかるというネガティブな面のみでなく、熊本市の資産を増やすという面もあり、市民協働なども見据えたアドバイスであるが、事務局としていかがか。</p>
事務局	<p>街路樹を資産として捉えるという視点は必要であると感じる。今後、基本方針の中で指摘いただいた内容について検討していきたい。</p>
田中委員長	<p>街路樹は、植えた直後のみでなく、適切なマネジメントによって時間の経過とともに品格が生まれるものでもある。松本委員の指摘は「景観・魅力」と「管理」に係るア</p>

<p>澤委員</p>	<p>ドバイであり、基本方針の説明の中で触れてもいいだろう。</p> <p>街路樹は、時間の経過とともに文化的な価値も生まれるものである。街路樹によって、長期的に存続させて文化的価値を持たせることを見越して植えるものと、狭い道路において比較的短期に伐採することを見越して植えるものとを、植樹当時から考えることが大事だと思っている。オクス通りのクスノキも時間の経過とともに文化的価値が生まれおり、今となってはこれを伐採しようという者もない。将来的に街路樹をどういった姿にするかを路線ごとに考えていくことが大切である。</p> <p>現在、大きくなりすぎて信号や標識に被っているような街路樹も、植樹当時はそういった問題は発生していなかったはずである。街路樹は、植樹後の時間の経過とともに剪定等の適切な管理手法も異なるものである。そういった点において、今後、技術力を持った専門家の方たちの協力が大事になると感じている。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>街路樹に対して文化的な価値という目線を持つことと合わせて、路線に応じてメリハリのある路線計画を作ることが重要という意見である。計画の運用についても、世の中の変化に合わせて計画も継続的に見直していくことが重要だと感じる。</p> <p>これまでの議論を踏まえ、事務局案の基本方針について承認いただいてよいか。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>経済的・文化的な価値を加えた形での事務局案については同意する。</p> <p>一方、前提的な計画の在り方として、現在発生している課題の解決を念頭に置いた比較的小さいスケールでの計画とするか、または50年100年後を見据えて「森の都」を作り直すほど大きなスケールでの計画とするかの計画の方向性は、委員会としても重要な点になる。事務局案は前者寄りであるが、これまでの指摘は後者寄りの目線となっている。スケールが大きすぎると絵に描いた餅になりがちである一方、スケールが小さいと小手先の計画になる場合もある。</p> <p>自身としては、これまでの指摘を踏まえて事務局案に対してはもう少し大きなスケールで考えてもいいと思っており、順番に意味はないかもしれないが基本方針においては「景観・魅力」が1番目に来てもいいように感じる。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>自身としては、計画のスケールは策定の主体によると思っている。行政が道路管理において街路樹についての計画を策定するとすれば、事務局案のスケールで妥当であると考えている。一方、街路樹をまちづくりの目線で市民参画や文化の創出等も含めて考えるのであれば、もう少しスケールを大きくしてもいいだろう。</p>
<p>澤委員</p>	<p>市民ニーズ等に応じて、今ある街路樹を大きくしていく路線とそうでない路線とに分け、それぞれの目標やコンセプトを設定して、市民が納得するような説明ができればよいと考える。</p> <p>この市民理解の部分がこれまで最も難しいところであった。これまでの役所の担当者も、市民苦情は受けるもののその街路樹を切るかどうかを誰も決めることができなかった。有識者に依頼しても、なかなか決まるものでもなかった。やはり、そういった決定は話し合いをもって決めるしかないように感じる。</p>
<p>藤岡委員</p>	<p>事務局の立場として発言させていただくが、これまでの指摘のとおり街路樹の伐採ができていないことが本市の現状である。市としても都市デザイン室という組織を作</p>

<p>田中委員長</p>	<p>って街中の景観には配慮をしており、そういった背景もあって事務局案では電車通りと第2空港線を重点路線として位置付けている。</p> <p>澤委員の言われたとおり、オークス通りのクスノキを切るような決定をできる者はおらず、クスノキに合わせた周辺道路の在り方も考えている。電車通りについても、樹形の悪いものだけを間引いて、例えば電車通りを「イチョウ通り」とするような在り方も考えているところ。</p> <p>そういったことを見据えて、今回委員の方々の力をお借りして作成した路線計画を地域に下ろして、まずは工事も含めて5ヵ年計画の中で進めていきたいという考えである。</p> <p>計画を推進していくため、実行可能な路線計画とすることについては理解ができる。市民参画は今後必要不可欠だと考えているが、最初から全部が全部を市民にやってもらえるかというところではない部分もある。</p> <p>計画の方向性として、「緑の文化を造る熊本市民をサポートする熊本市役所」といった大きなスケールを持ったものにしたいとは考えるものの、スケールが大きすぎると絵空事になることも懸念されるため、まずは第1期の5年間に於いて基本方針をしっかりと作りつつ重点路線の計画を工事に繋げることで計画を見える化して価値観を作り上げ、第2期、第3期とつなげていっていただければありがたい。</p> <p>以上を踏まえ、今回の計画はスケールが小さいような印象も受けるが、第1期としてはちょうど良いスケールと考え、事務局案の方針で進めさせていただきたいが、いかがか。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>問題はないが、やはりこれまでの指摘の中で会った「資産」や「文化」については触れていただきたい。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>事務局案では、少しネガティブな表現も含まれる。「資産」なり「文化」の言葉を使いつつ、お金がかかるから切るということだけではなく、エイジングも考えつつ道路ストックを適切に管理しているというニュアンスも取り入れていただくということで、お認めいただきたい。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>続いて、第3章（基本計画）についてご意見をいただきたい。</p> <p>実際に点検を実施した事務局として、街路樹についてそのままでいいと感じる場所や対応緊急性が高く改善が必要だと感じる場所はどういったところになるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>実際の現場点検作業は外注業者に於て実施しているが、道路管理者の目線で考えると、根上りや落葉に起因する歩行者の転倒等については苦情が寄せられる傾向にあるという実感がある。</p> <p>吉村副委員長からもあったように、管理不全にも起因する強剪定により良好な樹形が保たれていない、または良好な樹形を確保するためには相当な技術と年数がかかってしまうような状況も見られていることから、今回の重点路線については再生していく必要があると認識している。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>これまでの議論の中であった将来的にどういった都市を形成するかという理想像の話と、事務局からあったすぐにも解決すべき喫緊の課題の話と、いずれにも街路樹</p>

<p>松本委員</p>	<p>が関係しているが、その中で重点路線を選んでいくことはとても難しいと感じている。</p> <p>自身としては、事務局の選択した案を信じたいと考えているが、逆に、ここは違うなり、この路線は上げるべき等の意見があれば教えていただきたい。</p> <p>今回の委員会に先立って自身も数路線の調査を行ったが、問題が多いのはイチヨウ、ケヤキ、クスノキの3樹種であり、現状の歩道のスケールに対してオーバーサイズでマッチしていないと感じたところ。これが根の障害に繋がり、根が腐るとそれが倒木の危険にもつながる。どの路線がどうということではないが、この3種とソメイヨシノも併せて4樹種が安全面の観点から注視すべき樹種であると感じた。過去の台風で倒れたのもほとんどがケヤキであった。路線計画を漠然と立てるのではなく、ある程度対象樹種を特定することも効率的手法であると考えている。</p>
<p>柴田委員 吉村副委員長</p>	<p>根上りを起こしている樹木に対して具体的な対策方法はこういったものがあるか。</p> <p>最近では根上りしたものを元に戻すような工事もあるが、舗装を剥いで根を撤去してまた埋め戻すというもの。植樹当初の植え方にも注意が必要。下の土壌が固いと根が上に上がってきてしまうこともあるため、将来的に対策が必要になる場合がある。</p>
<p>松本委員</p>	<p>根上りは、歩道に対するオーバーサイズ化に起因する。樹木も呼吸しており、幹周が大きくなれば植樹当初の植栽柵で根が収まらなくなり、根が酸素を求めて水や酸素を確保しやすい路盤層に根が伸びて舗装に異常を与える場合がある。</p> <p>また、クスノキにおいて一般的に根上りと言われるものは実はそうではない場合もある。クスノキは年数が経つと幹の下部でコブが出来るように肥大成長するものであり、これは幹の内部で異常が生じている訳ではない。クスノキを植樹するのであれば、こういったことを見越して十分な歩道幅員が確保できている必要がある。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>やはり、そこに何が植わっているかを知っておくことは道路管理者としても沿道住民としても重要。例えば、学校生活の中で自分たちの校区のメインストリートにある街路樹が何であるかを把握して言えるようになっていることはとてもいいことである。市民がどこにどういった街路樹があるかを知っているということは素敵なことだと感じる。</p> <p>自身の教え子が県庁や市役所に就職することもあるが、街路樹の仕事は人によって感覚が異なるため大変であるという意見も聞く。街路樹については世論の部分も大きいので、様々な人を巻き込んでキャンペーンを張っていくことも大切だと考える。街路樹に携わることが楽しいことだという意識付けが重要。自分の住む町にある街路樹が素敵だと感じる人が増えればいい街になっていく。強剪定される姿はかわいそうだと感じる部分もあり、多少の落葉があっても沿道の方々が積極的に拾っていければ、管理費の削減にもつながり、適切な管理ができることにもつながる。</p> <p>今回、重点候補路線を調査し、どこに何が植わっており、どこが危ないかの点検もできたところで事務局として重点路線を選定している。自身としては、事務局案で概ね良いと感じているがいかがか。</p>
<p>坂元委員</p>	<p>自身としても選定されて然るべき路線が選ばれていると感じる。</p>

福西委員	<p>自身が今回の委員会に応募したのは街路樹をととても大切に思っているからであり、近年では街路樹が古くなって倒木して車を潰すようなニュースも多く、街路樹を良く思わない人も増えてきたことを悲しく感じる。街路樹がない街には誰も住みたくないと思うし、自身としても木がたくさん生えている魅力ある街に住みたいという想いもある。落ち葉拾い等の市民参加も積極的にやっていけばいいと思っているが、友人からも「掃除を勝手にやっていいのかわからない」や「目立って恥ずかしい」等の話を聞く。田中委員長からあった市民参画を呼び掛けるようなキャンペーンなどを行うことで、街路樹を好きな人が積極的に参加しやすい雰囲気を作っていくことが大事だと思う。</p>
田中委員長	<p>普通の人々がどう思っているのかが表明しやすい環境を作っていくことが重要だと感じる。これから市民協働の話に移っていきたいが、その前に3章の重点路線選定については事務局案に承認いただいてよろしいか。</p>
原田委員	<p>交通管理者の目線からの発言となるが、自身としても重点2路線の状況は把握しており、特に第2空港線は根上りも多く本当に危ないと感じる。そういった中で事務局案の路線が改善されていくことは交通管理者としてもありがたい。</p>
田中委員長	<p>やはり道路においては安心・安全が非常に重要。道路は、車目線と歩行者目線で見え方が異なる。一言に道路管理といっても、街中では歩行者が多いし、外延部では車中心になってくるということもあるので、そういった点にも配慮して進めていただきたい。</p>
田中委員長	<p>これまでの議論を踏まえ、重点路線については事務局案のとおりで進めさせていただくこととする。</p> <p>では、第4章（効果的な管理手法の検討）について議論を進める。本章については第2回の委員会でメインに議論をすることとなるが、その前段としてこういったことが考えられる等アイデアがあればいただきたい。</p> <p>自身としては、以前から子供を対象に街路樹教育ができればいいと思っており、小学校で校区毎に大事な樹木などを考えることも楽しいだろう。</p>
福西委員	<p>子供たちは街路樹が1本あるだけでいつまでも遊べるし、街路樹の掃除をしましよと言われれば喜んで参加する。近隣の小学校付近には小さな緑地があり、小学生たちが花を植えたりしているが、そこにはごみを捨てたり悪いことをする人はいない。内容がヘビーだと指導する側の負担にもなってしまうが、地域の子供たちが参加できるようなライトな内容で、落葉を拾って掃除したりするような活動があってもいいと思う。</p>
田中委員長	<p>道路管理者と公園管理者で管理の範疇が異なるという点もあるが、緑という点で連携して取り組んでいくことが大事かと思う。2022年の緑化フェアもあるので、そういった点でも関係者で協力していただきたい。</p>
松本委員	<p>これまで落ち葉の清掃の話があり、鉄道敷で電車や車がスリップするような恐れがある場合には神経質になる必要があるが、その他については自身としてはそこまで神経質になる必要はないと思っている。自身が住んでいる付近の小学校の運動場沿いに</p>

<p>田中委員長</p>	<p>トウカエデが植わっており、あまり剪定がされていないがとてもきれいに紅葉している。毎朝近隣の方が清掃をしているが、自身としてはせっかくのきれいな落ち葉がもったいないと感じている。トウカエデの落ち葉が滑るのであれば話は別だが、それは落ち葉のみでなく路面の問題でもある。そういった部分を小さい頃からの教育や啓蒙により、しっかり考えることができるようになることが必要。</p> <p>近年ではほとんどの道路が舗装されており、自然が残っている場所も少ないが、白川沿いのように自然が残っている場所では誰も落ち葉を拾おうともしないように、時と場合に応じた対応も必要。みんなが関心をもって、例えば樹木に応じて拾ったほうがいい落ち葉なのか、そのままにしたほうがいい落ち葉のかなどを考えていくことが重要であり、その上で樹木医等の専門的知識を持った方に教えてもらうことも良いことだと思う。</p> <p>ステーキホルダー（利害関係）について少し触れるが、市役所で肅々とやることと、協働でやっていくことがあると感じている。P28の表現について、自身が行っている活動の中では「してはいけないこと」「してもいいこと」「したほうがいいこと」と区分をしている。基本的には「してはいけないこと」を伝えたいところではあるが、最近では地域主体で事柄を通じてお金儲けをしてもいい、という話もあり、それにより地域が循環していくようなことも大事で、そういった協働の形もある。</p> <p>いずれにしても、市役所の計画においてこういった内容を記載できるようになったことは大きな進歩である。昔は市役所の計画は市役所が市役所のために市役所がすることを記載していたようなイメージであったが、近年ではある程度市民に任せる部分も記載できるようになってきていると感じるため、今後も議論を展開していきたい。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>自身は仕事柄農村部との付き合いが多いが、そういった場所では今も区役（くやく）があり、例えば自分たちが利用する道路の雑木の伐採なども区役でされる。熊本の農村部では、自分たちのことは自分たちでやるという考え方が残っているため、これが市内でもなされるように目指していくような話だと考える。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>西原村においては、自分たちが使う道路の掃除を区役で行っており、かつまたそれをコンテストで行っている。道路の管理に地域の愛着を混ぜていくことには自身としても賛成であり、新しい市民を作っていくことができると感じている。</p>
<p>柴田委員</p>	<p>昔はアドプト制度と呼ばれるものがあつたと認識しているが、今もどこかの路線で実施しているのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>代表事例として、道路美化ボランティア制度がある。基本的には道路清掃を中心に無償での活動をしていただいている。</p>
<p>坂元委員</p>	<p>国のシステムとして、ボランティアサポートプログラムという制度も設けているが、先ほどの福西委員のお話だと、このような制度があることをご存じなかったと思われるので、PR不足もあるのかなと感じている。</p>
<p>田中委員長</p>	<p>道路清掃も委託料を支払って清掃業者に行ってもらっているが、この場合仕事になってしまうので、支払う金額分しか仕事をしてもらえない。一方、公園で遊ぶ子供たちの保護者たちのNPOに清掃を依頼すれば、自分たちの子供が遊ぶ公園ということ</p>

藤岡委員	<p>もあり清掃業者よりも丁寧に清掃をしてもらえる場合もある。今後、アドプト制度やネーミングライツ等の検討も行いながら、近くに住む人が恩恵を受けるようなことも考えつつ官民連携のプログラムの検討を進めていっても良いと思う。</p>
田中委員長	<p>本市としても公園においては地域委託制度を以前から行っているところであるが、高齢化等を理由に実例が増えない状況。道路除草地域委託契約については、お金を払って地域に除草等をしていただくことも考えている。また、電車通りのスポンサー花壇制度や植樹柵の地元管理等も考えており、いずれにしても緑化フェアを契機に活動が広がり、機運が高まっていけば良いと思っているところ。</p>
田中委員長	<p>自身の感覚として、熊本市内は小学校区内の繋がりが強いと感じており、それを利用しない手はないと思う。自分の校区が良ければいい、ではなく、例えば校区単位でコンテストをすることによってより良い活動に繋がっていくものであると思う。</p>
吉村副委員長	<p>例えば、落ち葉についても集めて持っていけば腐葉土として活用することも考えられる。市民と協働してどういったことをやっていけるかを協力して考えていくことが今後の課題である。</p>
田中委員長	<p>街路樹は様々な機能を持つとともに、循環型のものである。できるだけ自分たちの生活環境により良く活用ができれば良い。</p>
坂元委員	<p>国道3号、57号にはクスノキとイチョウがメインで植わっているが、非常に交通量が多い路線でもあり、これが妥当な樹種であるかについて思慮しているところである。当面は今ある樹木を大切にしようと考えているが、将来的に在るべき姿も考えていかなければならないと感じているところ。</p>
田中委員長	<p>国、県、市と組織は違うものの、市域の街路樹という一つのネットワークとして一緒に連携して考えていただけるとありがたい。今後も、国交省や県には引き続きご協力をいただければと思う。</p>
田中委員長	<p>今回の委員会は、計画の基本方針と重点路線について認めていただいたとともに、様々な意見交換ができ、とても良い議論ができた。</p> <p>では、議事は以上とさせていただきます。</p>
	<p>6. 閉会</p> <p style="text-align: right;">以上</p>